

JENESYS2022 日フィリピン「FOIP」交流の記録（招へい）

1. プログラム概要

【目的】「自由で開かれたインド太平洋（FOIP）」の実現に向けて、フィリピン関係機関における若手実務者や外交や国際関係に関心を有する大学生が、本プログラムを通じて関連省庁等を訪問し、日本の政策やアジアの地域情勢について、日本人と直接意見交換することにより、FOIPの重要性を深く認識し、彼らが FOIP について様々な機会を通じて対外発信することで、両国の強固な協力関係の構築を図ることを目的として実施しました。

【参加者】

フィリピンの大学生・若手行政官 70 名

【訪問地】事前学習：東京都、訪日プログラム：東京都、宮城県

2. 日程

■ 事前学習（オンライン）

2022 年

8 月 18 日（木曜日）【テーマ関連講義・質疑応答】【参加者間交流】

「ASEAN と日本の関係」

講師：外務省 アジア大洋州地域政策参事官室 首席事務官 矢澤 英輝氏

2023 年

3 月 2 日（木曜日）【出発前オリエンテーション】訪日プログラム前説明

訪日前迄の個別学習 【動画視聴】ホームビジット体験、南三陸町からのメッセージ、日本語学習、ようこそ日本へ～日本の感染症対策～、講義「ASEAN と日本の関係」

■ 訪日プログラム

3 月 7 日（火曜日）成田国際空港より入国

3 月 8 日（水曜日）【オリエンテーション】訪日時オリエンテーション

【テーマ関連講義「日本と ASEAN・日本とフィリピン関係について」

講師：外務省アジア大洋州局地域政策参事官室首席事務官 矢澤英輝氏

3 月 9 日（木曜日）【テーマ関連講義】「ポスト・パンデミックのインド太平洋における国際秩序の安定と国際協力の推進に向けて」

講師：政策研究大学院大学政策研究院教授・参与 篠田邦彦氏

【テーマ関連講義】「海上保安庁の役割について」

講師：海上保安庁総務部国際戦略官付上席派遣協力官 倉品剛氏

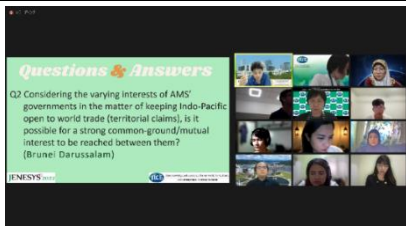
3 月 10 日（金曜日）東京都から宮城県に移動

【視察】瑞巖寺五大堂

- 3月11日（土曜日） 【視察】 海鮮せんべい塩釜
 【テーマ関連交流】 海辺の図書館
- 3月12日（日曜日） 【視察】 白石城
 【ワークショップ】 報告会準備
- 3月13日（月曜日） 宮城県から東京都に移動
 【報告会】
- 3月14日（火曜日） 成田国際空港より出国

3. プログラム記録写真

事前学習

	
8月18日【テーマ関連講義・質疑応答】 「ASEAN と日本の関係」	8月18日【テーマ関連講義・質疑応答】 質疑応答の様子

訪日プログラム

	
3月9日【テーマ関連講義】「ポスト・パンデミックのインド太平洋における国際秩序の安定と国際協力の推進に向けて」(政策研究大学院大学 政策研究院 篠田邦彦教授)	3月9日【テーマ関連講義】「海上保安庁の役割について」(海上保安庁 総務部国際戦略官付 倉品上席派遣協力官)
	
3月11日【視察】 海鮮せんべい塩釜	3月11日【テーマ関連交流】 海辺の図書館

	
3 月 11 日【テーマ関連交流】海辺の図書館	3 月 12 日【視察】白石城
	
3 月 12 日【ワークショップ】報告会準備	3 月 13 日【報告会】集合写真

4. 参加者の感想（抜粋）

□ 大学生

このプログラムは、東南アジア諸国が海洋、経済、政治のレジリエンスを維持することに、どれほどの価値があることを教えてくださいました。私たちは第三世界の国（シンガポールを除く）として軽視され、特に政治的側面において国際情勢への影響は取るに足らないと考えられているように感じることがあります。共に参加していた ASEAN の仲間から、共通の目標を達成するために相違点を乗り越え課題解決に団結しようという意見に刺激を受けました。

□ 大学院生

この交流プログラムは、ASEAN 地域と日本との友好関係やつながりについて、より深く学び、知る機会を与えてくださいました。ASEAN 諸国の互いの成長や経済的安定、地域の安全保障の実現に役立つ機会にもなりました。

□ 社会人

最も印象深いプログラムは震災のメモリアルイベントでした。心を揺さぶられる思いで実際に参加できて光栄です。私は公務員として参加しましたが、もし東日本大震災のような大地震や津波が私たちの住む場所に襲ってきたら、この様に生き延びることは難しいかもしれないと感じました。帰国したら人々に災害に備える方法やその大切さを伝えていきたいと思います。

□ 大学院生

外務省を訪問し、日本の外交政策が歴史によって大きな影響を受けてきたこと、また、1973 年から、防衛や国家安全保障において課題を抱えつつも、(ASEAN との) 外交の発展にしっかりと取り組んできたことを学びました。

5. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 講師

自分の講義が少しでも役に立つことが出来たならば、光栄です。今回の参加者の問題意識はとても高く、特に質疑応答で講師としても勉強になる質問を沢山いただきました。また、ホスピタリ

ティが高く、思い出に残る講義となりました。現役留学生も 2 名参加し、大学の魅力を伝えてくれたため、将来の留学先の一つとして興味を持っていただけことを大変嬉しく思います。

◆ 交流先

多くの参加者に真剣に聞いていただけて良かったです。今回も、参加された皆さんが、真剣に海の保全と向き合ってくれていることがわかり、有意義な時間でした。3.11 の震災慰霊祭に参加し、自然災害の多い国の悲劇や苦しみを分かち合えた出来事になりました。

6. 参加者の対外発信

	2022 年 8 月 18 日（Instagram） 夢が叶いました。楽しく学習ができ、初めて出会う人々と好きなことを共有できる素晴らしい機会となりました。ありがとうございました。
	2023 年 3 月 9 日（Facebook） 私は公共政策と国際開発プログラムまたは機関で大学院の学位を取得することを考えているのですが、政策研究大学院大学は私が目指すものの 1 つです。この権威ある機関である種の「オープンキャンパス」に参加できたことに感謝します！
	2023 年 3 月 12 日（Instagram） 仙台・荒浜での東日本大震災 12 周年記念追悼行事です。地震は北日本の三陸沖を震源として発生しました。地震の後大規模な津波が発生し太平洋沿岸地域に壊滅的な被害をもたらしました。この災害はこれまで日本で記録された中で最も強力な地震でした。太平洋沿岸に位置する荒浜地域を訪れ、地震による荒廃をこの目で見ました。また、仙台荒浜小学校での短い追悼式にも参加しました。2011 年 3 月 11 日午後 2 時 46 分に地震が発生した直後、この学校は 320 人の住民の避難場所となりました。現在、校舎や一部の廃墟が保存され、震災の教訓を伝える遺構伝承館となっています。

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表（抜粋）

日フィリピン交流（FOIP） ①



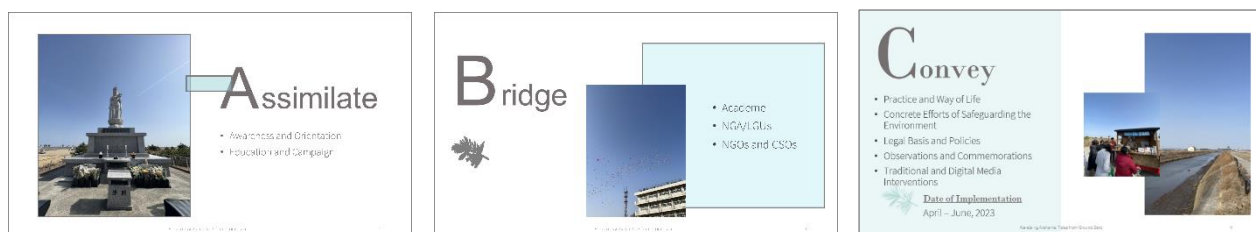
「ICHI」

FOIP にフォーカスした今回の学び・気づきを、日本語の「一」に重ね合わせ、以下の頭文字 ICHI で表しました。

- 「I=Information Sharing and exchange（情報共有と交流）」：2023 年 3 月～5 月を目途
- 「C=Collaboration（協力）」学生・ユース組織と協力
- 「H=Habit（習慣）」日本の生活様式や習慣などを日・比を対比しながら、どのように彫刻間は異なるかに着目して、目標期間内に SNS プラットフォームを通して発信
- 「I=Integration（総括）」参加者からの最終成果を取りまとめて報告

総仕上げともいえるこの最終成果報告は 6 月に在フィリピン日本大使館で外務省の皆様を対象に実施する予定です。

日フィリピン交流（FOIP） ②



「ALA-ALA」（タガログ語で「思い出」の意）

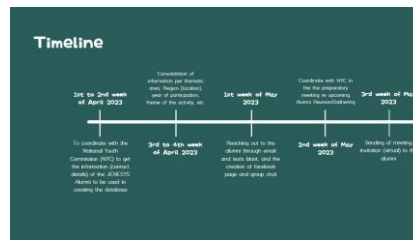
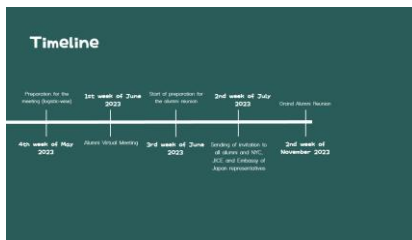
3.11 東日本大震災と津波による被災地である海辺の図書館・荒浜小学校訪問は、自然災害の多いフィリピンにも共感と衝撃を与えました。FOIP という考え方を基本に、両国に共通の歴史や課題があることを幅広く広報するため、以下の要領でアクション・プランを実行します。

また自然災害に対する防災意識や対策の共有によって両国間の公益向上に資すると思われます。

- A、B、C という 3 つの観点から A=Assimilate（考えなどを吸収・受容しつつ）B=Bridge（両国の架け橋となり）C=Convey（伝える）という作業を実行します。

フィリピンは過去に植民地時代が長く、その歴史に翻弄されながらもその時代時代に適合してきたという民族の歴史があり、これは日本の戦後復興・震災復興の歴史にも通じるものがあります。今回の訪問で経験し学んだそのような両国の考え方、政策などの類似性や相違性を、フィリピンの若い世代に対して、大学や学校などの教育機関、または NGO などの非政府組織でフォーラムを開催するなどして、デジタル化プラットフォームと従来型ツールの両方で伝えていきたいです。題材は早く準備し、6 月までに発信完了させるがもっと長期的に取り組む努力を払うものとしします。

日フィリピン交流（FOIP） ③



How

- Close coordination with NYC and JICE
- To secure an up-to-date database of JENESYS Philippine alumni information
- Establish the hub's e-mail address and community page
- Hold the first coordination meeting
- Conduct a national reunion/gathering of the Alumni with the following main agenda:
 - Define the hub's annual action plan
 - Election of the national secretariat
 - Proposed regional hubs
 - Presentation of possible projects
 - Coordination with JICE and Japanese Embassy for possible partnership and funding for alumni projects and conventions

同窓会組織を、地方と国を結ぶネットワークの拡大や NYC（National Youth Commission）と JICE 間での連絡機能の維持と強化、将来の JENESYS 参加者サポートなどを主な目的として設立します。

■ 実施スケジュール

- 4 月 2 週目までに NYC と調整しデータベースを作成用に JENESYS 同窓生の情報を得る。
- 4 月 3 週目までに地域、参加年度、活動テーマの情報を整理する。
- 5 月 1 週目 メールやテキストで同窓生に連絡し Facebook やグループチャット作成する。
- 5 月 2 週目 NYC と調整し同窓会の事前会合を行う。
- 5 月 3 週目 同窓生に会合の案内を送付
- 5 月 4 週目 会合の準備開始
- 6 月 1 週目 キックオフ会議を実施
- 6 月 3 週目 同窓会準備を始める。
- 7 月 2 週目 同窓生、NYC、JICE、日本大使館を同窓会へ招待する。
- 11 月 2 週目 同窓会を実施する。

■ 検討課題

- ・ NYC と JICE の緊密な調整
- ・ JENESYS フィリピン同窓生の最新の情報データベースの確保
- ・ ハブになるメールアドレスとコミュニティページ作成
- ・ 最初のミーティング開催
- ・ 同窓会組織の年度行動計画の明確化
- ・ 活動資金の援助をどのように得られるのかの検討など

同窓会コミュニティハブは皆の意識を高め、同窓生主催の地域活動を行うプラットフォームとして JENESYS 同窓会（特に地方も意識する）や SNS のページを作成し、JENESYS に応募するときのサポート、日本とフィリピン関係の情報を共有するセッションを行います。

日フィリピン交流（FOIP） ④



「さくらプロジェクト」

日本に関する情報や国際青少年プログラムの情報収集を始め、その情報の広報活動を促進するとともに、ソーシャルイノベーションと青少年参加を通じて日本とフィリピン間のパートナーシップを強固にし、グローバル社会における活動的な一員となれるようフィリピン青年を教育する目的を達成することを標榜します。

- 実施する者：メンバー
- タイムライン：
 - ・ 4月21日までに SIBOL、Facebook ページにチャットボットを立ち上げ
 - ・ 4月22日にウェビナーを開始
 - ・ 4月23日ごろに官民の青少年組織向けにチャットボットを立ち上げ（学生、青少年リーダー、専門家、一般人を対象）
- JENESYS プログラムについてのチャットボットを展開し、公式オンラインを開始します。

実施団体名：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）